

研究主題 「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

学校名 春日部市立春日部中学校

教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小中連携（小中一貫）をとおして具体的にどのような取組をしているか。

生徒一人一人を理解していくためには、授業等のほかにあらゆる場面で生徒の様子を把握し、変化に気づき対応していく必要があると考え、特に次のような場면을重視して指導にあたっている。良さを認め伸ばすという観点から学校生活の活性化を図る。

本校では、週1回水曜日の第1限に生徒指導委員会を設けている。委員会には、校長、教頭、主幹教諭、各学年生徒指導担当、養護教諭が参加している。生徒指導の重点を確認し、一週間の指導等の報告や生徒の気になる状況について細かく情報を交換・共有し、指導の方針を立てる。また、全職員が同一歩調で指導がすすめられるように、生徒指導委員会後に、記録ノートの回覧をしたり職員の打ち合わせ等で、その内容を報告し共通理解を図っている。

☆春日部中学校 生徒指導の重点目標

「積極的な生徒指導」を実践し、生徒を伸ばす生徒指導体制と、信頼関係を築く教育相談の充実

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| ・朝の校内の巡回 | ・朝の校門や昇降口、自転車置き場での声かけや観察 |
| ・休み時間、昼休みの巡視 | ・二者面談，三者面談の実施 |
| ・生活ノートの日記から生徒の悩みや不安の理解 | ・部活動の指導と評価 |
| ・欠席・遅刻・早退が続く生徒への家庭との連絡 | ・下校時の声かけ |
| ・保健室の利用状況の確認（養護教諭との連携） | ・放課後の戸締まりの確認をしながらの校内巡回 |
| ・退勤前の担任による教室の状況把握と評価・確認 | ・登下校安全指導 |
| ・教育相談員、特別支援教育コーディネーターとの連携 | ・個性を活かす学校行事 |
| ・わかる授業実践 | |
| ・生徒会、委員会活動の充実 | |

《共通指導事項》

○指導（ほめる、しかる）のポイント

- ・指導のタイミングを大切にする。
- ・小さな問題を見逃さず、細かい指導をする。
- ・指導後、担任、学年、部活動顧問などの関係教職員との連絡を密にする。
- ・指導はできるだけ複数であたる。
- ・場所や方法をしっかりと考えて指導する。
- ・粘り強くあきらめない指導を行う。

《今年度の重点課題である積極的な生徒指導の具体的指導》

○生徒の内面に目を向けた積極的生徒指導

①「自己存在感を与えること」

②「自己決定の場を与えること」

③「共感的な人間関係を育成すること」

① 自己存在感を与える

- ・ 発問等を工夫し、すべての生徒に発表の機会を与える。
- ・ 発言のない生徒に意図的に発言の場を作る。
- ・ 生徒の考えのよさを見つけ、「ここがいいね」と誉める。
- ・ 提出物に返事や感想、コメントを必ず付ける。
- ・ 授業中や机間巡視で、励ましの言葉をかける。
- ・ 学級通信などで一人ひとりを紹介する。
- ・ 欠席者への配慮をする。(欠席者への声かけ)
- ・ 発表者の名前を記録する。

② 自己決定の場を与える

- ・ 1日の生活目標、学習目標を決めさせる。
- ・ 生徒が興味を持つ教材や提示を工夫する。
- ・ 生徒に課題解決の過程を立てさせるような授業展開にする。
- ・ 授業ごとに自己評価の場面を設定する。
- ・ 友達の意見との異同をはっきりさせ、自分の考えをもたせる。
- ・ 集会での号令や指示を少なくする。
- ・ 学級目標を振り返る時間を定期的にとる。
- ・ 友達の考えとの異同を明確にし、自分の考えを持たせる。

生徒のやる気を引き出す
春中の積極的生徒指導

③ 共感的な人間関係の育成

- ・ 生徒の発表にうなずきや相づちで応え、共感的に受け入れる。
- ・ 教え合い学習(言語活動)を実施し、協同して活動する場面を多く設定する。
- ・ 相談しやすい場所と時間を設定する。
- ・ その場で誉めて、生徒に励ましや賞賛の言葉をかける。
- ・ 授業後や休み時間等で生徒と談笑する。
- ・ できる限り生徒とともに給食を食べる。
- ・ 原因をともに考え新しい計画の援助をし、個別指導をする。
- ・ 友達の発表をしっかりと聞かせ、友達のよいところを認め合わせる。

○積極的指導に期待されること

- ・ 全教職員が同じ基準で指導することで、学校のルールを守ろうという行動が自然にできるようになるとともに、生徒の規範意識が高まり、学校が落ち着く。
- ・ 毎日継続して指導することで、教職員が生徒の小さな変化に気づくことができる。
- ・ 全生徒の様子を把握することができ、学年を超えた教員間で生徒の情報交換が活発に行える。
- ・ 授業等を担当していない生徒に対しても声をかけやすくなり、生徒も他学年の教員の話をも素直に聞き入れることができる。